

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	24-029	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
A dose-response meta-analysis on the relationship between average amount of alcohol consumed and death by suicide 平均アルコール摂取量と自殺による死亡の間の用量反応メタアナリシス		
執筆者		
Lange S, Llamosas-Falcón L, Kim KV, Lasserre AM, Orpana H, Bagge CL, Roerecke M, Rehm J, Probst C.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2024 Jul 1;260:111348. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2024.111348.		
キーワード	PMID	
自殺リスク、飲酒、系統的レビュー、メタアナリシス、用量反応関係	38820908	
要 旨		
<p><b>背景:</b> 自殺は、世界的に大きな公衆衛生上の課題であり、そのリスク因子の一つとして飲酒が指摘されている。本研究では、男女別に日々のアルコール摂取量と自殺リスクとの関連を評価し、リスクの程度や影響を明確にすることを目的とした。</p> <p><b>方法:</b> 主要な医学データベース (Embase、PubMed など) から、8つの観察研究を対象に系統的レビューとメタアナリシスを実施した。これらの研究には、アルコール摂取量と自殺リスクの関係に関する詳細なデータが含まれ、統計的モデルを用いて線形および非線形のリスク関係を解析した。</p> <p><b>結果:</b> 男性では1日10gのアルコール摂取で自殺リスクが11%増加し、50gで71%増加した。一方、女性では同じ摂取量でリスクがさらに高まり、10gで64%、50gでは11倍に達した。特に女性において、アルコール消費量が少なくてもリスク増加が顕著であり、性差が明確に認められた。また、解析に含まれた各研究間での結果の異質性は低く、結論の信頼性が高いことが示された。</p> <p><b>結論:</b> アルコール摂取量が増加するにつれて自殺リスクが比例的に上昇することが明らかとなった。特に女性では少量の摂取でも顕著なリスク増加が見られ、アルコール消費制限が自殺予防の重要な介入策となる可能性があると考えられた。この知見により、政策立案や公衆衛生戦略において重要な基盤が提供される。</p>		